

公民連携における道路空間リノベーション事業（神奈川県小田原市）

1. 実験実施の背景

- ・小田原駅は1日約20万人が利用、小田原城天守閣は年間約80万人の来訪者があるが、街なかを回遊していない状態
- ・主要な拠点からかまぼこ通り地区までの交通誘導が明確でなく、拠点間の回遊ができていない
- ・来訪者用の駐車場やロードバイク等を駐輪する設備がなく、地域住民と来訪者が交流できる機会、場所の環境が整っていない

2. 検証項目

●歩行者・自転車の主動線誘導実験

- ①歩行者主動線における歩行者断面交通量
- ②自転車主動線における自転車断面交通量
- ③自転車主動線の断面交通量における車道・左側通行の割合
- ④道路空間や案内サイン等の満足度

●やすらぎの歩行空間実験

- ⑤かまぼこ通り地区の道路における歩行者断面交通量
- ⑥かまぼこ通り地区の道路空間における滞留者数及び滞留時間
- ⑦かまぼこ通り地区内における通過車両の速度
- ⑧道路の歩きやすさや滞留空間の満足度
- 駐輪場・レンタサイクル需要実験
- ⑨なりわい交流館における自転車の駐輪台数
- ⑩なりわい交流館におけるレンタサイクル利用台数
- ⑪駐輪場・レンタサイクルの満足度

3. 実験内容

【実験地域】 小田原駅～かまぼこ通り地区

【実験内容】

- 歩行者・自転車の主動線誘導実験
 - ・かまぼこ通りへ歩行者を誘導
 - ・ピクトグラムにより主動線への自転車の経路転換を促進
 - ・車道（自転車走行空間）・左側走行を促進
- やすらぎの歩行空間実験
 - ・やすらぎと交流を促進する歩行・滞留空間を創出
 - ・通過車両の減速を促進
- 駐輪場・レンタサイクル需要実験
 - ・「小田原宿なりわい交流館」の機能向上
 - ・ホームページやSNSによる情報発信、案内看板設置

【実施期間】 平成29年9月22日（金）～平成30年3月31日（土）



図-1 位置図



図-2 案内看板の設置状況



図-3 滞留区間の活用状況

4. 検証結果

- 歩行者・自転車の主動線誘導実験
 - ① 歩行者主動線における歩行者断面交通量
 - ・平日、休日ともに**目標値を達成**、一定の効果を確認
 - ② 自転車主動線における自転車断面交通量
 - ・ピクトグラムによる主動線への転換は困難
 - ③ 自転車主動線の断面交通量における車道・左側交通量の割合
 - ・各交差点で**車道・左側走行の比率が増加**
 - ④ 道路空間や案内サイン等の満足度
 - ・拠点誘導と認知度向上に**案内サイン等は効果的**
- やすらぎの歩行空間実験
 - ⑤ かまぼこ通り地区の道路における歩行者断面交通量
 - ・歩行空間の創出の明確な効果は確認できなかった
 - ⑥ かまぼこ通り地区の道路空間における滞留者数及び滞留時間
 - ・滞留時間15分以内の割合増加、**滞留空間の創出効果を確認**
 - ⑦ かまぼこ通り地区内における通過車両の速度
 - ・5km/hの減速効果、**法定速度30km/h以下の車両が最多**
 - ⑧ 道路の歩きやすさや滞留空間の満足度
 - ・**歩行空間・滞留空間の創出効果を確認**

- 駐輪場・レンタサイクル需要実験
 - ⑨ なりわい交流館における自転車の駐輪台数
 - ・バイクラックの利用台数は目標値に近い値、**設置効果を確認**
 - ⑩ なりわい交流館におけるレンタサイクルの利用台数
 - ・利用台数が極めて少なく、利用促進の効果は確認できなかった
 - ⑪ 駐輪場・レンタサイクルの満足度
 - ・「良い取り組み」との意見が多く、**需要あり**

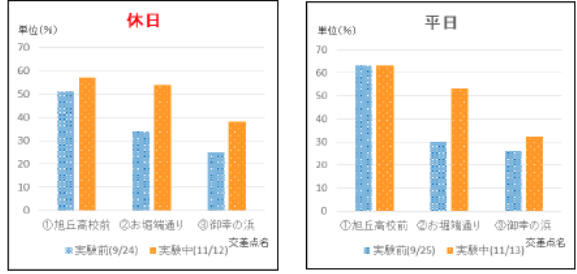


図4 自転車の断面交通量における車道左側走行の割合

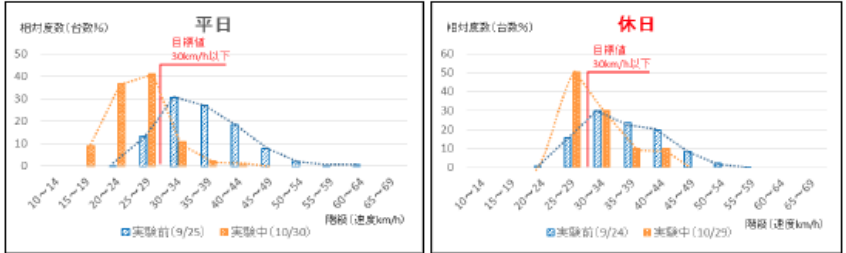


図5 実験前と実験中の車両の速度と台数の割合

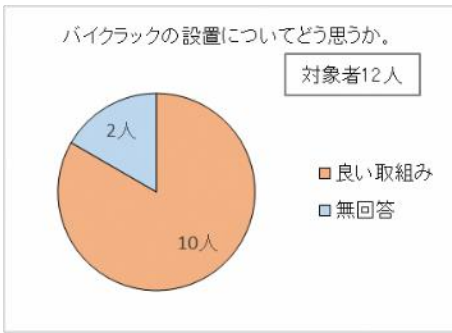


図6 ロードバイク利用者のヒアリング結果



図7 バイクラックの設置状況

5. 実験後の展開、明らかになった課題等

- ① 歩行者・自転車の主動線誘導実験
 - ・来訪者の回遊行動を把握できていない
 - ・自転車利用者が地元住民であったことから、経路転換が図れていない

- ② やすらぎの歩行空間実験
 - ・天候不順により効果が確認されていない
 - ・地区住民より車両の出入りに不便との意見
- ③ 駐輪場・レンタサイクル需要実験
 - ・なりわい交流館でのレンタサイクル基地としての需要が少ない
 - ・なりわい交流館やかまぼこ通りの認知度の低さ